

団体名		オオハガ座芸農倶楽部		活動タイトル		里山の生物多様性を守るために地域住民とともに行う環境整備活動	
活動対象地域における生物多様性の保全に関する現状と課題							
・対象地域である岡山県久米郡美咲町の大坪和(オオハガ)地区は、つなぐ棚田遺産に認定された大坪和西棚田を中心に自然豊かな里地里山環境が広がっているが、ここ5年ほどで急速に耕作放棄地が増え、現在は大坪和西棚田の約7割が耕作放棄地である。耕作放棄地の増加や担い手不足により、水路整備や草刈りなどが十分にできなくなったことで、ドジョウ、ゲンゴロウ、といった水田に生息する生き物も減少し、棚田のみならず周辺環境の生態系にも影響を及ぼしている。 ・二上山山頂付近は、岡山県の郷土自然保護地域に指定されており、アカガシを優占種とする常緑広葉樹が分布し、二上山山頂付近には「あまのじゃくのかさね岩」と称される特異な岩石群が分布、護法祭で有名な両山寺があるなど、文化的な価値も高い地域である。二上山古道は古くは両山寺の参道であり生活道であったが、道路が整備されて以降は使われておらず、人の手が入らなくなったことで、倒木や土砂の堆積、ぬかるみなどが散見され、オオハガ座芸農倶楽部がトレッキングルートとして整備を行っているが、担い手不足、資金難により整備活動の継続が大きな課題となっている。 ・高齢化や人口減少により、大坪和の豊かな自然や文化について昔の状況を知る人が減り、希少な植物や生き物の情報などが次世代に伝わっておらず、生物多様性の宝庫である里地里山の環境を守り未来の子どもたちへつないでいくことも課題である。							
■活動報告				■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)			
オオハガ座芸農倶楽部は地元の若手メンバーで構成され、郷土の自然環境の保全や伝統・文化の継承、および新しい付加価値を生み出す活動などを通じて、新しい村おこしのあり方を提案・実践しているグループである。これまで取り組んできたトレッキングツアーや定期整備に加え、一般参加者も交えたワークショップ形式で、環境整備手法の習得や生物多様性の現状把握のための調査活動、担い手育成に取り組んだ。 ●環境整備活動 ・大地の再生講座（2回：二上山古道、滝谷の滝） ・二上山古道トレッキングツアー（1回） ・定期整備（7回：二上山古道、大坪和西棚田、滝谷の滝） ●生き物調査および生物多様性マップづくり ・専門家との現地視察（3回：二上山古道、大坪和西棚田、滝谷の滝他） ・生き物観察会（3回：大坪和西棚田、里山生物多様性のお話会、滝谷の滝） ・生き物調査（4回：セトウチサンショウウオの卵塊調査・幼生調査） ・生物多様性マップづくり（2回：生き物観察会にて子どもたちとマップを作成した）				●環境整備活動 ・大地の再生による環境整備活動を行い、整備手法を習得できた。 ・二上山古道トレッキングツアーの参加者に二上山の魅力や環境整備活動の必要性を知ってもらうことができた。 ●生き物調査および生物多様性マップづくり ・専門家からの助言により、これから生物多様性の保全維持活動をしていくための指標種の選定（セトウチサンショウウオ、ササユリ、プッポウソウ）ができた。 ・生き物観察会には地元の親子参加が多く、郷土の豊かな自然を見直す機会となった。団体の活動についても知ってもらうことができた。 ・専門家の指導の下、セトウチサンショウウオの調査を行い、生き物調査の手法を習得することができ、生物多様性の保全維持の視点についても学ぶことができた。 ・地元住民や出身者などから聞き取りを行い、昔の大坪和の植物・蝶の分布状況、現在のプッポウソウの巣箱設置場所等の情報が得られた。 ・生き物観察会を契機に、大坪和の自然観察記録としてInstagramでの発信を開始した。Instagramを見た人から協力の申し出があるなどの反響があった。			
■事業を通じて得られたノウハウ				■望ましい社会状況を達成するための課題			
●環境整備手法の習得 ・大地の再生による環境の見立て、通気浸透水脈改善、風の草刈り等の手法を学んだ。また、重機を使わず人の手のみで古道のぬかるみ改善工事を行ったことで、お金をかけなくてもできる方法があることを学べたのは大きな収穫だった。 ●生き物調査手法の習得 ・セトウチサンショウウオの卵塊調査・幼生調査を通じて、生き物調査の一連の流れや、観察の視点とデータ取得、記録などの基本を習得することができた。 ●イベント運営のノウハウ習得 ・生き物観察会などのイベントを数多く実施したことで、時間設定や段取り、子どもたちのサポート、安全対策等、イベント運営のノウハウが蓄積できた。 ・(公財)岡山県環境保全事業団の出前講座を活用して専門家とのつながりが生まれ、大学サークルや子どもの活動団体など、地域内外で巻き込みが図れた。				●調査、保全計画 調査を始めたばかりで大坪和の生物多様性の現状把握が十分にできていない。過去の情報も集め、どのように変化しているのか検証する必要がある。その上で、保全計画を立てていく。 ●団体の基盤強化と持続可能な仕組みづくり 活動を継続していくためには、財源確保と運営スタッフの育成が必要である。 ●担い手育成と持続的な巻き込み 次世代の担い手育成のため、子どもたちが自然に触れ関心を持ち、郷土の自然や文化を守りたいと思えるような活動や仕掛けづくりが必要である。一過性の活動で終わることなく、能動的かつ継続的な参加を促すため、無理なく楽しく活動を続けていく工夫や仕組みづくりが必要である。			
この1年間の活動を通じて		大坪和の自然に触れる機会創出		を達成しました。			
■受益者の具体的な変化（自由記入）							
イベント参加者からは、大坪和の自然についての関心の高まりや、日常生活において植物や昆虫などを観察・調べることが増えるなど、行動変化があったとの感想が聞かれた。							